

# 八丈島文化協会 会報 第4号

八丈島文化協会事務局 Tel 2-2833

八丈町 三根4869-1

## 第3回総会にご出席下さい！

6月17日(火)19時から富士見地区公会堂で開催。

一昨年10月10日の設立総会で産声を上げた文化協会ですが、早いもので3回目の総会を迎えることとなりました。設立から1年8ヶ月、理事を中心に島内の文化団体や文化活動をされている方々の協力を仰ぎながら、まず文化団体のまとまりを強化したいと活動を行なって来ましたが、道半ばで多くの課題を背負っての日々でした。

この1年、富士見地区公会堂の指定管理者となり、ここを拠点に活動の範囲が広がりつつありますがもっと飛躍が出来るように、総会で会員の皆さんの率直な提案をたくさん頂きたいと思えます。

団体会員、個人会員の方は万障繰り合わせて、ご出席下さる様お願いいたします。

(総会資料は開催前にお配りします)

(文責：事務局長 内山江差夫)

かねてより望まれていた「イベントカレンダー2014年度」が発行され、八丈町広報5月号に折り込まれて各世帯に配布されました。

(発行：八丈町社会福祉協議会、編集：八丈島文化協会、協力：八丈町企画財政課)

カレンダーの編集時点で開催未定のイベント、開催予定日が明確でないイベント、変更など、より新しい情報は、インターネット版の「八丈島イベントカレンダー」を併せてご利用下さい。

(八丈島文化協会HP <http://8jobunka.jimdo.com/> の中に掲載されています)

“八丈島文化協会”で検索するとご覧になれます)

※ 各種イベントに関する新たな情報をお持ちの方は上記文化協会事務局まで電話又はFAXでお寄せ下さい。

出来る限り「八丈島イベントカレンダー」インターネット版に反映いたします。



# 文化協会事業への町補助金額決定

## 前年比30万円増額 新規事業と運営費は採択されず

八丈島文化協会では昨年10月21日、八丈町に対し、総額6,669,000円の予算要望を行いました。  
(会報3号既報)。

本年は町制60周年記念でもあり、町から企画提案の要請もあったことから、会員にむけて新規企画を募ったところ、10件の提案が集まりました。理事会で内容を検討し、『おじゃれ』ホールを中心に島に文化の花咲く1年を」と、提案のあったすべての企画について補助金を要望しましたが、新規企画については1件も採択されませんでした。

前年実績のある4事業については、「八丈島芸能文化祭」事業に600,000円、(20万円増)、「八丈島文化フェスティバル」事業に300,000円(10万円増)、「八丈島おやこ劇場」事業に450,000円、「八丈島民大学講座」事業に250,000円と、全体で1,600,000円の補助額が決定され、25年度比で30万円が増額されました。

この総額は、4事業への固有の補助金であり、諸事業を運営管理する本元である文化協会に対する直接的な金については別に予算要望を行いました。が、昨年度と同じゼロ査定という残念な結果となりました。

来年度の予算要望は今秋に実施する予定です。協会では、安定的な協会運営のための助成を引き続き町に要望して行くとともに、会員のみなさまからの提案や要望をとりまとめて、要望していく所存です。

来年度実施予定の企画や要望等がありましたら、お気軽に事務局までご相談下さい。よろしく願いいたします。

なお、昨年6月から富士見地区公会堂の指定管理者に指定され、運営管理を行ってきましたが、本年も継続して指定管理者となりました。昨年はのべ利用回数250回、のべ利用人数2,113人の利用実績がありました。公会堂にはホールと会議室、調理室があり、会員は協会からの助成により、安価で利用できる特典があります。皆さまからの利用料は協会の貴重な財源となります。団体の練習や集いなどにぜひ、ご利用ください。

(文責:事務局長 内山江差夫)

## 八丈町多目的ホール「おじゃれ」の技術者制度と作業内容について

八丈町多目的ホール「おじゃれ」は規模も大きく設備も高度である為、安易な操作を行うと火災、感電、落下、機器の損傷など人的・物的な危険性が有ります。

対策としては本来専門の技術者を常駐させるべきなのですが経費の理由等により八丈町職員、又は町民の中からの技術研修受講者(以下「受講者」と表記)が町の斡旋を受けて操作をする形となっています。

現在、八丈町の職員以外の受講者は音響・照明が各2名、舞台が1名います。

(今後新たな講習計画も予想されます)

椅子席と平床の転換や照明の点灯・消灯、マイクの準備等は八丈町の職員が行っています。

(イベントやリハーサル、練習中に音量調整、照明の転換、引割緞帳・吊り物の操作等が必要無い場合)

上記以外の操作には「受講者」が当たりますが、島外からの「乗込技術者」による操作も可能です。

操作以外の音響プラン、照明プラン、舞台効果等高度な演出が必要な場合は島外の出演者サイドのスタッフの招聘も考慮する必要がある有ります。

(文責:理事 菊池一明)

# 八丈島文化フェスティバルが開催されました

本年も島の21の文化団体が一堂に会した。何と言っても、その「堂」を待望の多目的ホール「おじゃれ」に替えたことが最大のトピックスだろう。

ホールの利用に関しては、各団体が練習を始めようとした時点からこまごまとした不便を発見することになり、かくも立派な施設を町民の手でどのように運営し活用していくかという課題を広く投げかける機会にもなったと思う。

参加団体は今までになかった舞台設備に悩まれたかもしれないが、音響や照明等の演出は同規模のホールにおける催しと比べても遜色がなく、技術者により演者が引き立っている場面をいくつも見る事ができた。



M-isle  
Ballet

また、クラシックバレエや日本舞踊などでは特にこの会場の格のようなものが感じられた。

参加する多くの人にとって、島内では最大の発表の場である文化フェス。

「おじゃれ」の舞台が日ごろの取り組みへのモチベーション向上の一因ともなればと、まだまだ新しい可能性をも期待させるホール運用元年となったのではないだろうか。



八丈高校合唱

初めてスタッフとして関わらせていただき、司会者の立場から舞台転換の時間をつなぐために取り入れた会場インタビューだったが、お話を聞かせていただいた中にオープニングからエンディングまで弁当を持って来られたというご夫婦がいらっしゃった。事前の実行委員会でも「知り合いの出番だけを観て帰る方が多いので客席の出入りが激しい」ということがクローズアップされており、事実、昨年まで一観客であったわたしもそうだったのだが、そうでないお客様も少なからずいらっしゃるということに気づくことができた。

一日中観ていても飽きない文化フェスを目指すのであれば、幕間の時間短縮等にはまだ改善の余地があると思う。

そして、このように愛され、歴史の長いイベントであればこそ、たくさんの世代で支えていかなくてはと思う。



八丈島民謡保存会  
(加茂川会)



エンディング

来場者数 約1150人

参加団体 21団体

(文責：実行委員 星野麻子)

第1回

## 八丈島芸能文化祭が開催されました

新たなスタートとなった八丈島芸能文化祭。実行委員と出演者両方で参加させて頂きました。初の参加でしたのが周りの皆様に支えられ何とかやりきる事が出来ました。

今の八丈島で出来る最高の物を提供したいと言う想いをふまえ「即興」をテーマに掲げ実行委員一同運営から演出まで企画して参りました。有料イベントと言う事もあり各出演団体の皆様も気合いが入っていました。

オープニングから凝った演出でどの演目も素晴らしかったです。

トリの津軽三味線は飛行機の都合で短くなってしまったのが残念ですが、三味線も横笛も素晴らしいものでしたね。特に横笛の音色が忘れられません。

また、ダンスではプロダンサーを招いての初の試み八丈太鼓とのコラボ。

島のキッズダンサー、更にピアノを加えての試みとなりました。

本番まで、全体で合わせたのはリハを含め2回、子ども達の振付けや指導は娘が担当し練習練習の日々でした。本番が近くになるに連れ不安は大きくなる一方でしたが、

今は亡き享年会長が良くおっしゃっていた、皆が笑顔で楽しめる様にどのお言葉を胸に、心を一つにし本番を迎えました。笑顔で踊る子ども達も。

終演後は抱き合って涙していました。アンケートでも沢山の方から、感動しました素晴らしかった夢をありがとうなどの貴重なお言葉を頂きました。

プロもアマも大人も子どもも関係ない、演じる側が心を一つにし、心から楽しみ感動する事が、見て下さる観客の皆様に伝わり、楽しみ感動へと導くのだと改めて実感しました。

次回へ向けて改善すべき点は沢山あると思います。

アンケート等を参考に次につなげて行きたいと思いますので宜しくお願いします

最後に、来場者の方々、関係スタッフの方々、本当に有り難うございました。

(文責：実行委員 浅沼 優子)

